

338号



2017

9月

長月



9月 薬師岳 太郎平から

# 目次

---

## 山行案内■

- ・ テント、ツェルト幕営実践 3
- ・ 烏ヶ山～象山 周遊コース(テント泊) 4
- ・ 劔岳(北部稜線縦走) 4
- ・ 九重連山(1787M久住山) 5
- ・ 宮島散策 6
- ・ 三嶺～牛の背 6

## 活動報告■

- ・ 鳳凰三山&甘木山 7
  - ・ 鳳凰小屋～広河原～北沢峠 10
  - ・ 甲斐駒ヶ岳 11
  - ・ 浦石峡 13
  - ・ 細見谷 15
- 2017年 第5回 定例集会議事録 17
- 2017年 第5回 運営委員会議事録 18

# 山行案内



2017年度教育講座V

## テント、ツェルト幕営実践

【日 時】9月30日(土)～10月1日(日)

【場 所】三倉岳キャンプ場(集合場所共)

【集合時間】15:00

【交通手段】自家用車(各自or乗り合わせ)

【費用】乗り合わせ車両費

【行 程】

▲30日

8:00～15:00 自主山行

15:00～17:00 テント、ツェルト設営、緊急時の使用法

17:00～夕食準備～懇親会～……(焚火?)

(夕食、飲料(つまみ、アルコール等)調理器具、食器等又朝食共各自用意お願いします。)

▲1日 6時起床～朝食～テント、ツェルト撤収～解散

自由行動解散及び定例クライミングトレ

ハイキング自主山行(三倉岳～瓦山縦走or燕岳)

【装 備】 テント、ツェルト(細引き、ストック等必要備品)、(シュラフ、カバー、マット)、調理器具、食器、夕食(アルコール、つまみ)、朝食、飲料水、ヘッドランプ、他ハイキング、岩トレに必要なもの。

【予定講師】

【申 込 先】

【申込期限】**9月23日**

今回はマイテント持参共(個人テントの検証)それぞれのテントの過ごし方等もツェルトと合わせて一緒に勉強しましょう。又1日は定例クライミングトレの予定になっており、ハイキングの計画も入れ、ハイキング、クライミング両者での幕営及び懇親会にしたいと思いません。(ワイワイ楽しくやりましょう!マイテントの自慢も!)

※9月30日自主山行計画 大師山～白滝山 CL 土屋

宮内串戸8:00～9:30岸根集会所…11:50大師山12:30…13:00白滝山…14:00岸根集会所～三倉岳キャンプ場14:30

※10月1日

・三倉岩トレCL後藤

・ハイキング計画(三倉岳～瓦小屋山、燕岳)

※テント、ツェルト持ってない方も参加OKです(中型テント用意します。)

[▲目次へ](#)

## 10月例会山行

## 烏ヶ山～象山 周遊コース(テント泊)

- 【期 日】 10月7日(土)～8日(日)                      【山 域】 倉吉市
- 【集合場所】 JR 宮内串戸駅                              【集合時間】 10時00分
- 【交通手段】 乗用車    【参加費用】
- 【行 程】 10月7日 宮内串戸駅 10:00→鏡ヶ成キャンプ場 13:30→→周辺散策  
10月8日 烏ヶ山～象山 周遊コースハイキング→→宮内串戸駅 17:30
- 【装 備】 ハイキングに適した服装、非常食、雨具、地図、テント泊用寝具、着替え、食料、食器等
- 【地 図】 1/25,000 伯耆大山                              【リーダー】
- 【申 込 先】    【申込期限】 **9月末まで**
- 【山行の呼びかけ】 江府町と東伯町との境にある烏ヶ山(1448m)は大山・氷ノ山に次いで中国地方第3位の高山です。黒々とした烏がおおきく羽をふくらませているような形がその山名の由来で 急峻な山容から「山陰のmatterホルン」とも呼ばれているそうです。  
鏡ヶ成キャンプ場のすぐ近くに登山口がありますのでキャンプを楽しんで朝早めに出発して烏が山からの眺望を楽しみましょう。西方にある大山は圧巻だと思います。南峰ピーク分れから新小屋峠に降りて象山(1085m)へ足を延ばしてキャンプ場へと1周します。

## 10月バリエーション定例山行案内

## 劔 岳(北部稜線縦走)

- 【期 日】 10月5日(木)～9日(月)                      【山 域】 北アルプス
- 【集合場所】 宮内串戸駅                                      【集合時間】 10/5 19:00
- 【交通手段】 レンタカー or 自家用車                      【概算費用】 ¥50,000前後
- 【予定行程】
- ・ 10月5日(木) 宮内串戸 19:00(各高速道)～4:00立山駅
  - ・ 10月6日(金) 立山駅(5:30～6:40) 室堂 8:00…12:00 劔澤小屋 12:30…14:30 真砂沢ロッジ(泊)
  - ・ 10月7日(土) 真砂沢ロッジ 6:30…仙人峠…11:30 池ノ平小屋(泊)
  - ・ 10月8日(日) 池ノ平 5:00…小窓 7:20…池の段乗越 10:50…12:30 劔岳…15:00 早月小屋(泊)
  - ・ 10月9日(月) 早月小屋 6:00…馬場島 10:00～11:00 上市駅～12:00 立山 13:30～11:00 宮内串戸
- 【個人装備】 ヘルメット、(ハーネス)カラビナ、スリング、アイゼン、ピッケル、岩稜歩きに適した服装(寒さ対策共)小屋連泊装備、(詳細別途打合)
- 【参加条件】
- ① 特別基金5口以上の加入者
  - ② 事前打ち合わせ2回及びトレーニング山行の参加

[▲目次へ](#)

## トレーニング予定

- ・9/17（日）広島アルプスボッカ（10kg以上）
- ・9/23（土）天応銀座尾根～アイゼン尾根往復、及び3点支持トレ（第一、ニポピュラー）
- ・9/30（土）or 10/1（日）三倉岳ボッカ（ツェルト講座予定日）

【申込先】

【申込期限】 **9月16日**

【山行の呼びかけ】 剣岳 雪と岩の殿堂、アルペンの山容、先行者誰もが自慢する裏剣の眺望、紅葉、会長一押しの北部稜線、クライマーの憧れ、チンネ、ハツ嶺の岩峰を望みながらの岩稜縦走、早月尾根から振り返れば辿ってきた北部稜線、全てに記憶に残る眺望体験、山行となるでしょう。

※ 真砂沢ロッジ、池の平小屋到着後各自の体調、翌日の天気によっては停滞、エスケープ

① 真砂沢ロッジ=引き返しorロッジくろよん泊、周回～一の越～室堂～立山

② 池の平小屋=阿曾原温泉小屋泊～樺平～宇奈月～黒部～立山

※ 停滞によっては日程延長有

10月例会山行

## 九重連山(1787m久住山)

【期 日】 10月20日（金）～23日（月）

【山 域】 九重

【集合場所】 JR 宮内串戸

【集合時間】 22時

【交通手段】 乗用車（予定）

【参加費用】 宿泊費約2万+交通費分担

【行 程】 20日（金）JR 宮内串戸駅 22:00…21日（土）長者原 6:00…雨ヶ池 7:10…8:00 法華院温泉 9:00…山荘小屋で荷物をデポして平治岳 11:00…12:30 大船山 13:00…15:00 法華院温泉  
22日（日）法華院温泉 6:30…8:30 久住山 9:30…10:30 星生山…沓掛山 12:00…黒岩山 13:00…下泉水山 14:30…長者原 15:00 …16:00 筋湯温泉泊

23（月）8:00…15:00 JR 宮内串戸駅

【装 備】 宿泊ハイキング装備（寒さ対策）昼食 非常食 雨具 地図 ヘッドライト

【地 図】 1/25000 九重連山

【リーダー】

【申込先】

【申込期限】 **9月22日（金曜日）**

【山行の呼びかけ】 九州の屋根 1700m以上の高峰が10座を超えている九州の紅葉といえばまずここから 紅葉シーズンにはこれらの山々の山肌がじゅうたんのよう赤や黄色におおわれる。また高山植物も楽しみの一つです。紅葉時期9月下旬～11月中旬と記載されています。※行程・ルートは参加人数が決まりしだい、日数を含めて再検討をいたしますのでとりあえず参加してみては？法華院温泉山荘とりあえず6畳2部屋予約済 筋湯温泉は参加人数で予約をとります。申込期限を早めていますので、よろしくお願いします。

[▲目次へ](#)

## 宮島散策

- 【期 日】 10月28日(土)～29日(日) 【山 域】 宮島  
 【集合場所】 JR 汽船宮島口 【集合時間】 8:00  
 【交通手段】 船 【参加費用】 船、タクシー 食費(実費)  
 【行 程】 10/28(土) 8:10 船…8:20 宮島…タクシー …9:00 広大植物実験所…10:00 大川浦  
 …大川越…牛馬道…12:00 青海苔浦(ツエルト or テント張り) …13:00 魚釣り or 養父崎  
 浦方面(散策)  
 10/29(日) 9:00 青海苔浦…(車道)10:30 大砂利浦…(タクシー or 徒歩)…12:00～15:00  
 宮島栈橋  
 【装 備】 ツエルト or テント、雨具、地図、コンパス、ヘッドライト、テントマット、シュ  
 ラフ、ライター、ペーパー、サーモス、コップ、箸、まな板、ナイフ(包丁)、バーナ  
 ー貸し出し用あり、ガス(各自)  
 10/28 昼食各自、10/28 夕食(メインはリーダー用意)、10/29 朝食各自、10/29 昼食各自  
 ★10/28 夕食各自一品持ち寄り、酒、(釣りをする人釣り道具)  
 【申 込 先】 【申込期限】 10月25日(水)  
 【山行呼びかけ】 山と海を満喫しよう!  
 ◎宮島お詫び 9/23 から 10/28～29 変更◎

バリエーション自主山行

## 三嶺～牛の背

- 【期 日】 10月14日・15日 【山 域】 四国剣山  
 【集合場所】 任意 【集合時間】 午前4時  
 【交通手段】 自家用車 or レンタカー 【参加費用】 会車両規定  
 【行程予定】 ・ 14日 ■ 広島 4:00…直登ポイント 10:00…三嶺 14:00…お亀岩小屋 16:00  
 ・ 15日 ■ 小屋 6:00…牛の背 8:00…亀居峠 11:00…広島 18:00  
 【装 備】 小屋泊用の一般縦走装備 【リーダー】  
 【申 込 先】 【申込期限】 9月末日  
 【山行の呼びかけ】 三嶺の北尾根のヤブの踏み跡をたどり山頂ほぼ直登(標高差800m)。そこ  
 からは天狗塚への一般縦走路にでます。小屋泊は無料で綺麗なお亀岩小屋を予定。翌日な  
 だらかな牛の背から亀居峠の古い径をたどって下ります。一般には目にすることないはっ  
 とするような景色に出会ったり壮大な笹の原の縦走路を歩きます。

[▲目次へ](#)

7月例会山行

県連フリー登山バス

## 鳳凰三山&甘木山



【期 日】 7月27日（木）～7月31日（月）早朝

【参加者】

【行 程】

7月27日（木）JR 広島駅新幹線口前→間所 IC→山陽道→名神→中央→葦崎 IC→芦安温泉→夜叉神の森

7月28日（金）夜叉神の森～夜叉神峠～杖立峠～苺平～南御室小屋（昼食）～薬師岳～観音岳～鳳凰小屋

7月29日（土）鳳凰小屋～地藏岳～鳳凰小屋～五色滝～白糸滝～南精進滝～青木鉱泉

7月30日（日）青木鉱泉～登山口～御所山～大西峰～甘利山～広河原→白山温泉→葦崎駅→葦崎 IC→

7月31日（月）中央→名神→山陽道→間所 IC→JR 広島駅

### ■ 1日目、7月27日（木） 天気： 晴れ一時雨

7:10 広島駅集合

7:30 34人のメンバーでいよいよ出発です。

中井さんから登山バスの説明（歴史や今年

の実施状況等)がありました。赤字にならなくて良かった、良かった！！ 安達会長からは全員無事に帰るって来るようにとの話「夏山登山中の危険について」と今回の登山中の気

象関係のお話もありました。また、各々のグループのコース説明があり、期待がふくらみます。

その後、小黒川SAに何時に到着するか、到着時間当てクイズが実施された。(予定では15時00分到着でした。)

13:00 ビンゴゲームが始まりましたが、同時刻頃から雨が降ってきました。明日は止んで欲しいなあ～！！

14:57 小黒川SAに到着したことから到着時間当てクイズは14時57分が正解でした。ドライバーの方達の正確で安全な運転に感謝です。

17:30 夜叉神の森に着き、お風呂、夕食の後の懇親会を少しして、明日への期待と不安を胸に布団にもぐり込みました。皆に遅れないで歩けますように。アーメン！！



■ 2日目 7月28日(金) 天気：曇り一時雨  
【コースタイム】

4:00 起床 - 5:10 夜叉神の森 登山口 -  
6:15 夜叉神峠 - 7:50 杖立峠 - 9:40 苺平 -  
10:25 南御室小屋 10:50 - 11:50 砂払 - 12:10  
薬師岳小屋手前ピーク(昼食) 12:40 - 13:00  
薬師岳 - 13:35 観音岳 - 14:55 鳳凰小屋 -  
19:30 消灯

予定より1時間早い5時に小屋を後にし、小屋前の登山口よりいざ出発。初日から約10時間の歩きとなる(； ；) が、がんばる、

ぞ。。！

今のところお天気は安定。半袖では少し肌寒い気温は18℃。真っ直ぐに伸びたカラマツの樹林帯の急登を水場先生を先頭に登っていく。徐々にカラマツに加えてダケカンバや木に垂れるサルオガセ(とろろ昆布みたいなやつです)なども姿を現し、まさに神秘的なイメージの名の通り夜叉神の森っぽい。帰ってから調べますと、昔々天長2年からこの地域では豪雨災害が多く、それを当時の人々は水を司るとされた夜叉神の祟りだと言い、夜叉神を奉る石碑をこの夜叉神峠に立てたそう。

2時間半経過、杖立峠にコースタイムよりかなり早く到着。わわわわ！！白根三山バッチリ見えます♪ 数年前に白根三山から見た鳳凰三山がとても美しかったように、今回は反対側からの景色。美しく、そしてカッコいい。テンション上がる！でもあと7時間半！！。ここで引き返してもいいですか。くゝ 〰 〰 >ゲッソリそれでも、行かねばならぬのか。葛藤と闘いながら花のついていないコバイケイソウやマイヅルソウの葉を見つめながら歩き続けると、わたしの心模様か小雨も降ってきた。ちょうどよいタイミングで南御室小屋に到着したので、小屋の方のご親切に甘え、雨宿り休憩と雨具装着をさせてもらった。割高な冷たい飲み物の誘惑に簡単に負けコーラを買う。プハッ、美味い！山にはコーラでしょ！ オレンジジュースを買った前田さんの物欲し気な視線が気になったので一口あげた。『中井さんが雨具を装着すると晴れる』というジンクス通り、雨が止んできたので、気を取り直して小屋を出る。ちなみに小屋の周りにはノバナノヘビイチゴという苺がたくさんあり、小屋の方に聞くと昔からこのあたりには苺がたくさん生えていたので苺平と名付けられたそう。食べてみると、野生な甘酸っぱさの美味しさに、小屋の方の人柄の

良さも割り増しして感動した。 中途半端に雨具を脱ぎ着しながらガスの中をゴロゴロと巨大な岩を抜けながら、7時間後、やっと薬師岳小屋が見えてきた。ガスの切れ間に薬師岳と観音岳が見える。薬師岳小屋は現在改装休業中なので、景色の良い小屋手前ピークで昼食とする。ここで、初めて人に出会った。人気の少ない南アルプスあるあるネタだ。そして、ここでどうしても声を大にして叫びたいことがある。夜叉神小屋の朝ごはん用のむすびが塩辛い。ただのふりかけ混ぜむすびなのに何を間違えたのか本当に辛い。殺人的に辛い。辛いというよりもはや食べるのが辛い(ツライ)。しかもこれ、650円。650円払ってツライ想い。当分語り継ぎたい。

さあ、塩分も多量に摂取したことだし目の前の薬師岳、観音岳へ。まるで燕岳を思い出させるような、白砂とヘンテコ岩のオブジェの中の稜線を一気に抜ける。ガスで白根三山も富士山も見えないが、それでも岩陰に健気に咲くお花たちに癒された。シャクナゲ、マイヅルソウ、ミミナグサ、そしてこの山頂付近にしか咲かないタカネピランジ。淡いピンクから濃いピンクのものまでそれぞれの個性で楽しませてくれた。コースタイムも順調に出発からほぼ10時間後に鳳凰小屋に着いたときには、疲労感より安心感だったかな。小屋にはたくさん人がいて、皆楽しく飲んだり話したり賑やかで。小屋周りは水が豊富でしかも美味しく、クルマユリやフウロや他にもたくさんのお花が咲き乱れ、久々の山歩きわたしには体力的には過酷ながらも、山にいる有り難さを改めて感じられた。

美味いと有名なカレーも食し、バイオなトイレも済まし、お月様と星がキレイだ。明日の朝、富士山見れますように。19時半消灯。(小屋の規則です。早っ!!)

■ 3日目 7月29日(土) 天気: 雨一時曇り

3:00 吉岡グループを見送って直ぐにすごい雨の音大丈夫かなー、心配しつつ一眠り

6:10 朝食を済ませてザックは小屋に置き地蔵岳に向かって出発、

7:00 砂で歩き難い道を登りオベリスクに着きました、ガスが掛かって幻想的

7:30 下山開始アット言う間で小屋に着く。

8:20 下山支度をして出発 ドンドコ沢コース下りる間ずーっと雨

10:50 昼食取り高い段差が有り歩き難い道を下る事5時間

13:30 今日の宿青木鉱泉に着く 此処には温泉が有りゆっくり入浴し今日の疲れを取る夜雨の音を聞きながら明日どうなるんだろう気にしながら眠りに着く 皆さんお疲れ様でした。

■ 4日目 7月30日(月) 天気: 雨後曇り

朝目が覚めると、雨が降っている音。昨夜風呂の中で、明日は雨のようだから観光ねと話したばかり。

5:30 荷作りを済ませ朝食。雨がほとんど上がっている。昨夜とも食事がおいしい。満足!! 話し合いの結果せつかく来たのだから、甘利山に登ろうということになった。また雨具を出して荷づくりのやりなおし。

7:40 青木鉱泉を出発。林道を歩き分岐に差し掛かる。みやま橋を渡り登山道に入る。今日は私が先頭に立って歩くことになった。山は最初から急登である。ドンドン山は陰しくなる、赤い印を基に45度ぐらいの傾斜を行けども行けども、ガスっているのとで先が何も見えない。少し明かりが見えて登ると、さきはガスの中。「誰がこんな山見つけたの」と文句を言いながら、4時間近く歩く。

11:40 やつとの思いで御所山(1892m)に到着。雨が上がっている間に昼食を済ませ

て、まずは大西峰に向けて出発。これからは笹藪。先頭は蜘蛛の巣だらけ、笹は雨に濡れてビショビショになりながら、大西峰目指す。

12:45 大西峰到着。みんな感激のあまり、涙目でガッツポーズ。バンザイ・・・時間的に少し遅れたので、千頭星山はパスをすることに。甘利山に向かう。途中一組の登山者に会ったが、御所山の存在すら知らない。

13:50 甘利山に到着(1731m)ここは四方が見渡せる丘のような山である。展望もよく葦崎の町が一望できる。青空だー久しぶり！！続々と他のチームからの下山報告あり、私達も小走りでグリーンロッチに到着。ここで親切な薬師岳小屋のおかみさんに会い白水温泉まで車に乗せてもらえた。タクシーを呼ぶと30分かかるし、11KMもあるという。

15:00 温泉では雨でドロドロの私達を気持ち良く受け入れてもらい本当に感謝です。

17:00 葦崎駅前の居酒屋で乾杯。お疲れ様です。至福の時です。

19:15 無事にバスに乗り込みましたその後各場所で全員が乗り込み、まずは各リーダー



大西峰みんな感激のバンザイ

一の報告会。散さんに眠りについた。

6:00 広島駅に到着。7月31日(月)最寄りの駅に各自降りて行かれた。皆様全員無事でお疲れ様でした今回はあまり天候に恵まれなかった。雨具に大変お世話になりました。

また、この企画をお世話していただいた中井様に感謝です。全員がけがもなく各山から下山できたことは本当に良かったと思います。有難うございました。

[▲目次へ](#)

## ▶ 鳳凰小屋～広河原～北沢峠

【期 日】7月29日(土) 雨のち曇り

【コースタイム】鳳凰小屋 3:40→オベリスク(地蔵ヶ岳) 5:01→高嶺 6:34→ 白鳳峠 8:03→広河原 11:01 昼食 12:30→北沢峠 12:55



地蔵ヶ岳～高嶺～広河原

山行2日目。今回の私の目的は早川尾根をもう一度歩く事なのに、午前3時、雨音を聞きながら起床。暗い小雨の中出発するのは、私達3名だけ。ヘッドランプとガーミンを頼りに歩く、天気良ければ、青い空があれば此処から見えるオベリスクは最高なのにとか思いながら歩く。小雨と霧で視界はよくないが目の前にオベリスクが見えた。小休止し高嶺に向け出発。登山道両脇にはシャクナゲロード細尾根で、岩稜で変化にとんだ登山道だ、晴れていればパノラマ展望コースだろう。時おり日差しが高嶺手前で青い空に甲斐駒ヶ岳と虹が足を止め写真タイム。今回天気に恵まれなかったがこの景色で良しとしようと思った。

白鳳峠に着く。雨は降ってなく、ときたま空がチラリ。私は早川尾根を歩きたいと思っただがこの天気では、こもれび山荘16時着は

無理ということで、エスケープルートの広河原に下山することにした。

白鳳峠から広河原下山は、やまなしの森林100選シラビソ林と看板があったが、下山道は雨で滑りやすく木の根、岩場、クサリ、梯子4連チャン、木橋と集中して歩く。標高差900mあったそうだ。このコースは登りも下りも歩きたくないと思った。

広河原インフォメーションセンターで荷物の整理、昼食を済ませ12:30発バスで北沢峠へ。土曜日でこの天候で28人のりバス3台(2台は臨時便)の運行、さすがの百名山ですね。

こもれび山荘では、ゆっくり荷物整理をしてお茶して雨は降ったりやんだり相変わらずの天気。バスで北沢峠入りは正解でしたと納得。



登頂、みんな笑顔



登りではガスがかかり見えなかった  
甲斐駒ヶ岳も下山道からはバッチリ

## 甲斐駒ヶ岳

【期 日】7月30日(日)曇り→晴れ→雨

【コースタイム】こもれび山荘 5:10→ 仙水峠 6:30→ 駒津峰 8:03→ 甲斐駒ヶ岳 10:00  
~10:34→ 駒津峰 11:39→ 仙水峠 12:43→ 北沢峠 13:54

[▲目次へ](#)



仙水小屋



急峻な樹林帯から振り返れば栗沢山の雄姿



山行3日目の午前4時、雨音を聞きながら起床。電波が不通で天気の変向が掴めない。

思案しながら朝食をしていると、雨合羽を着た登山者が続々と出発。触発され午前5時過ぎ、仙水峠コースに変更してひとまず出発。

樹林帯の中、沢沿いを登っていく。約1時間仙水小屋を通過。しかし未だ電波受信不能。雨上がりの色鮮やかなシャクナゲに見送られながらガレ場の中を進んで行くと栗沢山との分岐、水仙峠に到着。遭難者の慰霊碑を見て少し緊張。ここに来てようやく受信可能となり予報に安堵する。急峻な樹林帯をはるか先に行く同行者をうらめしく思いながら、ひた



雲間から仙丈ヶ岳の山頂がちらりと姿を見せる

すら我慢の上り。やっと双児山コースとの合流地点、駒津峰(六合目)に到着。「あと1時間半」を胸に雨に濡れた痩せ尾根の岩稜帯に足を取られないよう六万石(八合目)を通過。ようやく最後の直登と巻き道の分岐。何人かが直登を引き返し巻き道に変更して進む。疲労困憊の中、直登への勇気は萎えていた。無理を言って巻き道へ。しかし安全対策の巻き道も起伏のある岩稜帯、延々と続く砂山・・・楽に登らしてはくれなかった。高山植物も目に入らない。ここに来てリタイヤ?あり得るかも。弱すぎる自分を半ば叱咤しながら、もう悠然と頂上に立っているだろう2人を羨望しつつ、やけくそになりながら歩を進めていく。

頂上まで5分の所。2人は待っていてくれた。そして3人でゴール。祠に安全登頂を感謝し、達成感と登山者の笑顔に癒されながら

昼食。時折霧が晴れ間から仙丈ヶ岳などが見える。このまま続きそうにも思う天候だったが、早々に下山。帰りも当然長い。そして案の定、仙水小屋を過ぎた頃から雨。しだいに雨脚が早くなり傘を差しての帰還となった。やっと長衛荘へ。もう歩かなくてもいい。運良く臨時便のバスに乗り、広河原へ。そして

温泉に入った後ビールで乾杯。

自分の力不足で足を引っ張ってしまった。そのための進路変更は申し訳なかった。次回は相当の準備をしたい。危ぶまれた天候にも守られ、無事下山。共に登ってくれた吉岡さん・前田さん、ありがとうございました。

[▲目次へ](#)

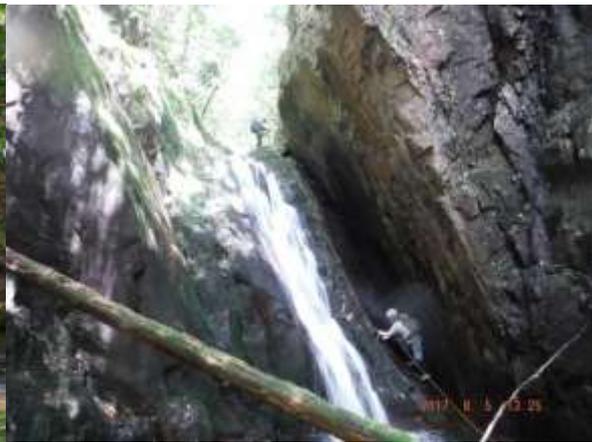
## バリエーション 沢歩き二題

### 浦石峡

【期 日】 8月5日 (晴)

【参加者】

【タイム】 国道 434 号入溪 9:15 →カンス淵 F 1 9:45 → F 4 11:20 →アベウシの滝 F 6  
12:15 → 昼食 12:45 →コヤの谷セト F7 13:20 → 木目の滝 (下) 14:55 → 終了点  
16:00



沢歩きはあまり好きではない。虫に刺されるのも嫌だし、生まれは魚座なのに濡れるは苦手だ (関係ないか)。それでも嫌々ながらも中国山地の人気の沢は歩いてきた。ただしどの沢もへつりや高巻き、ブッシュの綱渡りがほとんどで、淵や釜を泳ぎ渡り登攀するような沢は歩いていない。そして足回りはいつもワラジに地下足袋。それで不便さを感じたことはないしベストなスタイルといまも信じている。ただし年々ワラジの購入が困難になる

とともに、一足千円を超えるようになってしまった。

入会以前に買ったワラジを用意した。やたらに藁の滓が飛び散る。国道 434 号線のちょっと広い空き地に一台駐車して、もう一台は出口近く宇佐神社方面に回送中。全員揃ったところでガードを跨ぎ、急傾斜のヤブ 10 m を下り、宇佐川本流に降り立つ。そこでひとりワラジを川水で湿らしヒモを結ぶわけ



だが、藁のしなやかさがでてこない・・・経年劣化か？ 履くのものにもたつく間に他のメンバーの姿が見えなくなった。歩き始めは馴れない沢の感覚にふらつくのが当然だが、それにしてもワラジと足の感覚がしっくりこな。五分ばかり沢を追いかけ進んでも先行のメンバーに追いつかない。浦石峡分岐をすぎ宇佐川本流をひとり下っていたわけで、慌てて分岐点へ戻った。

追いつくとすでにF1の釜を泳いで2mの小滝を登る。ヨチヨチの平泳ぎで滝の壁に取り付くが足先が滑る。三、四回と滑る。上がってみるとワラジのつま先がベロのようにめくられて役立たずの状態。しかもよじれて。そ

の先からこの状態にずっと悩まされることとなった。

滝を登攀するのであって、釜や淵を泳ぐとは思っていなかった。

F4：6m 土屋さんが果敢なリードで訳なく登り、フォローの確保態勢をとる。ここも釜を泳いで滝に取り付く。後続の先頭を吉田さんをお願いして私が最後尾。すこしは馴れて淵をへつらず泳いでる最中・・・左足からワラジがすう〜と剥がれて滝壺に消えた。こわごわ右足のフリクションで滝を登る。

あかるいナメラの河原で昼食。ザックの中はもちろん浸水。中途半端な防水対策のために昼食用のバーナーは濡れて役立たず、補助的な菓子などですませた。すべて自業自得とはいえ気分がよろしくない状況がつづく。

F7：6m ココがイチバンの核心。安達会長のリード。右手の淵沿いに泳いで斜行のクラックに沿って登る。錆び付いたハーケン三本。二本目までがぬるっと濡れて気持ちよくない。ヌンチャクを回収しながら左足地下足袋の指先を慎重にスタンス置き慎重に登る。この直後の10mは歯を立てたような苔むした岩が流れを二分する見事なゴルジュだった。やがてこの先沢で右足のワラジのヒモがちぎれて役立たず、しばらく両足地下足袋で遡行した。

木目の滝（下部）左手のブッシュ気味の濡れた斜面。捨てずにとっておいたワラジのヒモをスリングで補強して右足に履いて登る。つるんとした岩の最後のひと登りが恐かった。これを越えるとそれはそれは見事なナメラ状の滝が終了点までつづいていた。無事に遡行を終えてやれやれ。片足となったワラジを灌木に捨て置き靴を履き替えた。

ダートな林道を四〇分歩き回送している駐車場所へ。水場さんと吉田さんが再び車を回送する間に、独り集落の近道を下り、廃校と

なっている宇佐小学校の脇を抜けて歩いてみた。校門のスズカケの大木が枝を広げている。まるでひとの気配のない校庭に午後遅くの日

差しが強く照りつけていた。

記★高見沢

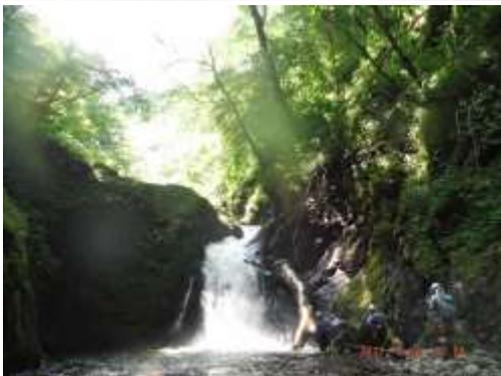
## 細見谷

【期 日】 8月20日（晴）

【参加者】

【タイム】 入峡(9:20)→イカダ滝(12:25)→オオリュウズ(12:45=昼食=13:15)→S字ゴルジュ(13:35)→ロクロ谷分岐(14:38)→林道合流(16:21)

前回のワラジスタイルの懲りてとうとう沢靴を買った。ワラジ十以上の値段だったが、意地を張らずに最初からこれにすべきだったかも。



細見谷は三回目。初回は紅顔の美少年の面影を宿した十代最後。河原のママシの多さに辟易しつつ、高巻き、高巻きながら抜け、当時は林業作業の小屋もある頃で、水越峠手前までトラックに便乗させてもら峠で幕営をした。

二回目は佐伯山の会に入会の五月にクライミングをはじめての八月。会長、土屋、細田、高見沢の四名で今回と同じルート設定で歩いたが、時間切れでオオリュウズからヤブ漕ぎしつつ林道を使い折り返して立野キャンプ場へ戻った。

そして三回目。さすがに今回は泳ぎは必須で防水対策、冷え対策をしっかりとしておいた（・・・はずだったが、袋の締めが弱く着替えは濡れるし、完全防水パックの締めが弱くて財布がずぶ濡れ・・・というお粗末）。

一の谷を過ぎるあたりから本格的に淵の泳ぎが始まります。小滝でも越えるには淵は泳ぐが細見谷らしいといえば、それらしい。日差しの届きにくい淵がつづくとき身体が少しずつ冷える。対策に古い雨具を着るとすこしは冷えが押さえられ、おすすめの方法です。

二の谷を左にやりすごすころから岩壁が迫り、ゴルジュとなって流れは白く泡立ち、谷は暗く凄みを増してくる。とうとうやってき



ました。F6イカダの滝。前は滝の登りでは水際から立ちあがれなかった（個人的）因縁の場所です。安達会長リード。右手の淵の半ばに一本ハーケン。滝の右手カンテ状の岩に一本ハーケン。いずれも古いがないよりはマシ。吉田さん、土屋さんと順調にこなして最後尾。岩伝いに泳ぐというより浮きつつ淵をたどり、因縁の場所もあっけなく登り切る。クライミングをやってきたおかげでしょうか。不思議なものです。

つづくオオリュウズは怒濤の白い泡をまき散らし相変わらずの迫力。左手のブッシュの急斜面を高巻いて滝口に降り、すこし進んで日当たりのよい場所で昼食となった。休憩の間に身につけた衣類も乾き、酷暑は届かずむしろ冷えた身体には優しい谷の日差しだった。

もう全身濡れることはないだろうとタカをくくっていたら、やはりありました。折角乾いたのに嫌でも淵を濡れながら小滝を越える。最後の見所、S字ゴルジュを抜けるとあとは平凡な沢がつづき、ロクロ谷との出会いに到着。地図には表せない4m位の小滝が連続してそれぞれフリーで好きなところを登る。8mの滝を越えると流れはさらに細くなり明らかに源流は近づいてきた。左手の急斜面のヤブを登り稜線を越えるとすぐに林道にでた。駐車場所へは10分下る。車両の通過に気を遣うことなく道に濡れものを広げて着替え、道具の片付けをすませ立野キャンプ場へ戻り、現地解散となった。

▲目次へ

